

令和5年度 創進学園高等学校 学校自己評価

学校運営計画			
学校運営方針		自己の可能性にチャレンジし,新しい時代に活躍できる心身ともに健康な人間を育てる。	
昨年度の成果と課題		今年度の重点目標	具体的目標
<p>&lt;成果&gt;</p> <p>校則に基づいて身だしなみを多くの生徒が整えられるようになった。挨拶についても、生徒自らが少しずつ実践できるようになってきた。</p> <p>学校生活や進路行事等を通じて勤労観、職業観を身につけることができた。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>①基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成</p> <p>②基礎的・基本的な学力の定着と自ら学ぶ態度の育成</p> <p>③希望する進路実現に向けた意識の向上と家庭との連携および共通理解</p>		<p>基本的な生活習慣の確立と生徒指導の充実</p>	<p>全教職員の共通理解のもと、端正な身なり・挨拶・時間厳守等の習慣を身につけさせる。生徒指導を行う上で基盤となる、教員と生徒の共感的人間関係をつくる。規範意識と公共心の涵養を図る。</p>
		<p>基礎学力及び学習意欲の向上</p>	<p>家庭学習定着のための指導の工夫。生徒一人一人に応じたきめ細かい指導。進学や資格取得を目指し、学校生活に目標を持たせる。ICT機器を効率的に活用して新たな学びに対応させる。</p>
		<p>希望する進路の実現</p>	<p>進路・学年・保護者間で緊密な連携をして進路指導を行う。進路ガイダンスや大学説明会、企業見学等を通して、有益な情報を提供する。生徒が志望校・科目選択を正しく行えるように、的確な受験指導を行う。</p>
デザイン・アートコース・キャリアコース共通			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価
生徒指導	「あ・じ・み三原則」の定着	“あいさつ・時間厳守・身だしなみ”の習慣づけと定着への積極的な声掛け指導を行い、意識させる。月ごとに重点指導項目を設定、教職員・生徒に周知し指導にあたる。	B
	メディアリテラシーの向上	SNS等で誹謗中傷をしない、させないために、生徒に思いやりの心を育ませ、人間関係を工夫させる。学校生活の中で、集団を意識させ、公共の場であるという意識を持たせる。	A
	環境美化意識の向上	職員が常時清掃指導を行うことで、すべての生徒に清掃活動を習慣化させる。	C
保健指導	心身の健康の維持	生徒が自ら健康課題について考え、判断し、行動できるような実践的な能力や態度を身につけるよう指導と支援に努める。ま	A

生徒 支援		た、保護者面談や保健室だより等の様々な機会を通じて、心身の健康情報を発信する。	
	健康上の課題に対応	心身に、健康上の課題がある生徒の把握を的確に行い、その指導と支援について保護者、家庭との連絡を密にする。また、生徒全員の個別面談では傾聴しながら生徒の実態を把握し、個に応じた支援を行う。普段から教職員同士のコミュニケーションを図り、事例検討会で課題を共有する。	B
	関係者との連携	保護者・専門機関との情報交換を密にし、連携を図り、課題を共有する。	A

デザイン・アートコース

評価 項目	具体的目標	具体的方策	評価
学習 指導	授業の充実	一般教科においては、教員内での情報交換を密に行い、生徒の習熟度や定着度合いを把握し、適宜指導を行う。美術科目に関しては、技術のみならず一人ひとりの制作、作品への向き合い方を尊重した指導を行う。その向き合い方や制作意図を文章にし、他者に伝える力を向上させる指導にも力を入れる。制作や作品完成までの過程をよく相談し、個性豊かな作品を生み出すための指導を行う。	A
	予習復習の実施	1人ひとりが学習習慣をより確かなものにする。	B
	学習「課題」の取り組み	自ら積極的に課題に取り組み、創造力を高めるようにする。	B
進路 指導	体系的、組織的な進路指導の実施	担任や教科担当、保護者と緊密に連携を図る。また、3年間を見据え、体系的かつ組織的な進路指導を基軸とし、生徒個々人の能力や適性を理解した上で、生徒に寄り添う進路指導を行う。	B
	主体的、探究的な進路指導の実施	学校生活や進路行事、動画サービス等を通じて、多彩な学問を知る契機とし、勤労観、職業観を身につける。また、ICT機器等を活用しながら探究的な進路学習を促し、有意義な進路選択となるようにする。	B
	進路に関する情報の拡充	講演会、各種進路情報誌等、生徒や保護者が必要とする情報を提供し、情報収集の際、比較検討できるようにする。また、ICTを活用した情報共有、配信等を推進する。	A

キャリアコース

評価 項目	具体的目標	具体的方策	評価
学習 指導	生徒目線に立った授業改善に努める。授業中、生徒一人一人のつまづきを見逃さないよう努める。	机間指導を充実させ、授業時間内の生徒一人一人の状態をきめ細かく把握し、つまづいている生徒がいればその場で解決するように努める。	B

	I C T機器を活用して視覚的教材を授業に取り入れる。	I C T機器を随時活用して視覚的教材を取り入れ、理解しやすくするよう努める。昨年から導入されたタブレットを用い、より分かりやすい授業となるよう工夫する。	B
	レポートを確実に提出させ、学びの好循環につなぐ。	レポートについては、レポート本体に細かく教材のページ数を示したりして解きやすくし、わからない生徒については、フリータイム等を利用するなど、レポートを確実に提出できるように授業者が工夫する。	B
進路指導	体系的、組織的な進路指導の実施	教科担当や担任、保護者と緊密に連携を図るとともに、長期的な視野をもって体系的かつ組織的な進路指導を基軸とし、生徒個人々の能力や適性を理解した上で、就職進学問わず生徒に寄り添った丁寧な進路指導を行う。	B
	主体的、探究的な進路指導の実施	学校生活や進路行事、動画サービス等を通じて、多彩な学問を知る契機とし、勤労観、職業観を身につける。また、ICT 機器等を活用しながら探究的な進路学習を促し、有意義な進路選択となるようにする。	B
	進路情報の拡充	進路資料の精選と提示を工夫し、生徒や保護者、職員等が必要に応じて情報活用しやすい状況を作り出し、情報収集の際、比較検討できるようにする。また、ICT を活用した情報共有、配信等を推進する。	A
成果と課題	<p>&lt;生徒指導&gt;</p> <p>○成果</p> <p>身だしなみについて、頭髪の違反者が減少した。SNS に関係するトラブルが数件確認できたが、重大事態につながるトラブルは発生しなかった。</p> <p>○課題</p> <p>朝の SHR までに教室に入室できていない者がいる。教員によって指導に差があり、組織的に指導が行えていない。隠れてピアスを装着している者がいる。職員が清掃に参加していない。清掃監督ができてない箇所がある。帰りの公共交通機関の時間を気にして、生徒によって清掃に取り組んでいる者と取り組んでいない者が分かれている。</p> <p>スカート丈について一部の生徒から購入時の確認したにもかかわらず、短いと指導されたことに違和感を感じている。そのために、購入時のチェックをしっかりとする必要がある。</p> <p>&lt;保健指導&gt;</p> <p>○成果と課題</p> <p>心身の健康の維持では、生徒が自ら健康課題について考え、判断し、行動できるような実践的な能力や態度を身につけるよう指導と支援に努めた。また、保護者面談や保健室だより等の様々な機会を通じて、心身の健康情報を発信した。課題としては、個々の生徒の違いに沿った指導や支援に工夫が必要である。健康上の課題に対応では、心身に、健康上の課題がある生徒の把握を的確に行い、その指導と支援について保護者、家庭との連絡を密にした。また、生徒全員の個別面談では傾聴しながら生徒の実態を把握し、個に応じた支援を行った。</p>		

課題としては、特性が強い生徒への配慮を具体的かつ詳細に検討しながら支援する必要がある。普段から教職員同士のコミュニケーションを図り、事例検討会で課題を共有したが、今後は定期的に検討会を設定する必要がある。関係者との連携では、保護者・専門機関との情報交換を密にし、連携を図り、課題を共有した。卒業生については、今後とも連携先と連絡を取りながら、自立への支援に協力していきたい。

#### 【デザイン・アートコース】

##### <学習指導>

##### ○成果と課題

学力の差が大きいため上位者は主体的で積極的な学習態度が身につけてきているが、中位・下位者の意識が弱く、基礎的なレベルの学習機会が必要と感じる。学力・習熟度別な対応も視野にいれたい。学年・個々によって毎年差があるが、実態や特性に合わせた指導をした。進学コースを維持するためについてこられない、または望んでいないなどニーズに合っていない、ミスマッチが起こっている。その子にとって何が最善かをさらに考える必要を感じた。

##### <進路指導>

##### ○成果と課題

多様な進路選択を意識できるように行事を工夫できた。クラスによって進路指導のばらつきや偏りがあったため、学年ごとに目標を設定して年間行事計画として作成した。自己PR文、志望理由書の実作、模擬面接指導を講師を招いて行い、共通の指導を受ける場を設けた。また、ガイダンスのスタイルや内容も一新し、体系的かつ段階的な進路指導につながるよう計画した。主体的な進路選択を行えるようにガイダンスの内容も毎年見直しをしていく必要がある。また、進路に関する教員向けの研修などを取り入れ、体系的な指導につながるよう知識の更新を図る必要がある。

#### 【キャリアコース】

##### <学習指導>

##### ○成果と課題

学習に対する態度等は、学年が上がるにつれて、良くなってきているが、1年生は登校が常でなく、教室に馴染めない生徒もいた。登校型の変更により、単位修得につながった生徒もおり、個々の生徒に合った学習指導もできている。一方で、学習意欲が低く、レポートの未提出があったり、考査等で点数が取れない生徒もおり、年度末まで、個別指導の必要な生徒もいたため、こういった生徒に対しての、早めの対応、個々に応じた指導が必要である。

タブレットを使った学習も、レポートや資料配布を中心に行なっているが、さらなる利用に向け、改善が必要である。

##### <進路指導>

##### ○成果と課題

<p>多様な進路選択を意識できるように行事を工夫できた。コースの特徴等に拘泥せず、基本的な進路指導ができるように行事を工夫できた。クラスによって進路指導のばらつきや偏りがあったため、学年ごとに目標を設定して年間行事計画として作成した。自己PR文、志望理由書の実作、模擬面接指導を講師を招いて行い、共通の指導を受ける場を設けた。また、ガイダンスのスタイルや内容も一新し、体系的かつ段階的な進路指導につながるよう計画した。主体的な進路選択を行えるようにガイダンスの内容も毎年見直しをしていく必要がある。また、進路に関する教員向けの研修などを取り入れ、体系的な指導につながるよう知識の更新を図る必要がある。</p>
--

※評価は3段階(A・B・C)で行う。